

平成27年度 学校評価総括表 伊丹市立 こやのさと幼稚園

教育目標		のびのびと力いっぱい活動する子どもの育成						
重点目標		1、友だちと共に遊びを創り出す保育を実践する。 2、心身共に健康な幼児を育成する。 3、家庭・地域社会との連携を図り、信頼される幼稚園づくりに努める。						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学 力 の 向 上	自ら学び考える力を育む教育の推進	・子どもたちの考える力、伝え合う力を育成する。 ・学期ごとに保育力の向上と改善をめざした研究をすすめる。	・考えようとする場面、伝え合う機会を意図して保育の中に取り入れる。 ・毎学期1回以上、全職員が室内・戸外遊び、クラス活動の園内研修として保育を見合い、講師を招聘して学ぶ。	・考えたり、伝え合ったりしようとする姿が子どもそれぞれに増えたか。 ・すべてのクラスが学期に1回以上保育を見合い、園内研究を進める。	B	・発達段階に応じて、子ども同士で考え合い、進めていく活動を取り入れてきたことで、入園当初より、自分の思いを安心して伝え合ったり、自分で考え行動したりする姿が増えた。 ・講師を招聘して、園内研究を重ねることができた。	・引き続き、考える力、伝え合う力を育成する保育の工夫に取り組む。	・年度当初からの子どもの育ちをとと感ずる。日々の生活の積み重ねと、教職員のさらなる研究に努めてほしい。
	子どもたち一人ひとりの個性や能力に応じた教育の推進	・一人ひとりの心身の発達を捉えた教育を推進する。	・子どもの発達について文献などを読み合わせ、職員で共通理解を行う。 ・研究テーマに取り入れ、発達を捉えた運動遊びを継続的に行う。	・子どもの発達について職員間で共通理解する。 ・発達に応じた運動遊びを短期指導計画の中に取り入れて進める。	B	・運動指針を参考に、本園の子どもへの身体の使い方や意欲の実態をKJ法を用いて把握し、共通理解に努めた。 ・運動の視点からエピソードを記録し、気づきを短期指導計画の中に取り入れ、身体を動かす気持ちよさを味わう保育に取り組んだ。	・今年度の子どもの育ちと、保育の工夫をさらに、来年度の指導計画に取り入れ、発達に適した保育の展開につなげていく。	・今後も子ども一人ひとりの個性や発達を大切に受け止め、保育を重ねてほしい。
	特別支援教育の推進・充実	・特別支援教育コーディネーターを中心として、継続した専門機関との連携から、共に育つ特別支援教育に努める。 ・一人ひとりのよさや違いを認め合い、共に育ち合う子どもの育成に努める。	・継続して、コンサルテーションやインクルーシブ教育などの専門講師から学び、具体的な支援内容や方法を実践し、保育の質を向上させる。 ・子どもの育ちを捉え、個別の指導計画や個人記録を作成し、職員間で指導内容や指導方法の検討、共通理解を行い、保育の実践をすすめる。	・保育の工夫により、個別の指導計画にあげた目標が達成できたか。 ・互いに認め合い、共に育ち合える学級経営ができたか。	A	・昨年度も招聘した専門講師から学ぶ機会を設け、支援内容の改善や、工夫を実践し、24か月の子どもの成長を確かめ合うことができた。 ・全職員で共通理解しながら、特別支援教育に取り組んだことで、安心して過ごし、それぞれの違いを認め合いながら育つ保育の実践ができた。	・成長の変化に伴い、一人ひとりへの適した支援ができるよう、来年度も関係機関を活用し、保育の質の向上に努める。	・子ども一人ひとりへのきめ細やかな支援が小さな成長の積み重ねとなり、大きな成長へとつながっている。 ・支援の必要な子どもへの配慮とインクルーシブ教育として行われる、クラス・園の今後の保育の充実に期待する。
豊 か な 心 ・ 健 や か な 体	豊かな心を育む道徳教育、情操教育の推進	・すこやかネットまつぎ10箇条を活用した心の教育をおこなう。 ・子どもの人権や子育てを振り返り、人権について考え合う。	・園だよりとホワイトボードで、毎月1項目、目標をかかげ、保育に入れながら、家庭と連携して取り組む。 ・子育てや自尊感情、一人ひとりを大切にすることなどに視点をあて、保護者同士が意見を出し合う機会をつくる。	・保護者アンケートで、10箇条の目標を意識している保護者が昨年度より増えたか。 ・人権に視点をあてた学級懇談会を行う。	B	・保育の中で計画的、継続的に取り入れることができなかった。 ・家庭でも話題にあげたり、家族で意識して取り組んでいる様子もかがわれたが、意識の差は大きい。 ・学級懇談会では、いろいろな価値観に触れることができた。	・保育、学級懇談会共に、計画的、継続的に取り組み、子どもと共に大人も人権感覚を高めていく。	・子どもを取り巻く教職員、保護者、地域の大人の人的環境は大きなものである。安心して子ども同士、保護者同士が過ごしていたと感じる。
	子どもの健やかな体づくりの推進	・早寝・早起き・朝ごはんを定着させ、基本的な生活習慣を確立させる。 ・身体を動かす心地よさを味わう保育をすすめる。	・けんこうカレンダーやレッドコート検査など、保護者と共に取り組む機会をもつ。 ・身近な食生活から振り返る食育研修会を実施する。(2年計画の2年目として) ・律動やダンス、鬼ごっこなど身体を楽しく動かす活動を仕組む。	・ほけんだよりや学級懇談会などで、さらに話題にあげ健やかな体づくり家庭と連携できたか。 ・友だちと楽しんで身体を動かすようになったか。	A	・レッドコートやブラックライトを用いたほけん指導や、ほけん環境の工夫をけんこうカレンダーと共に実施することで、連携ができた。 ・アンケートを活用した食育研修会ができた。 ・しっぽとりや長なわ、竹馬やダンス、鬼ごっこなど、身体を動かす、群れて遊ぶ子どもが増えた。	・引き続き、園での生活を通して、家庭と連携し、実態把握、具体的な手立て、習慣化につながる工夫を進めている。	・竹馬や長縄跳び、鬼ごっこなど古くから伝わる遊びを多く取り入れた保育は親から子に伝わる遊びである。また、五感を多く使え活動でもある。親子での地域園外保育や運動会などで、園児だけでなく、保護者も共に楽しめていた姿が素晴らしいと感じた。
保 護 者 と の 連 携	家庭教育の推進	・家庭で子ども向き合う時間の推進をする。 ・全保護者と子どもの育ちについて共有する。	・よみかせカードの取り組みを引き続き行う。 ・読み聞かせカードを掲示し保護者啓発を行っている。 ・れんらくちょうの活用と、クラス集団としての育ちや、教育の内容がわかりやすいクラスだよりの発行を行う。	・各家庭で読み聞かせの冊数が昨年度より、増える。 ・全保護者とれんらくちょうでのやりとりをする。 ・昨年度より、子どもの育ち、園での教育がわかりやすいクラスだよりの工夫ができたか。	B	・読み聞かせカードの一人あたりの冊数が増えた。 ・園、家庭共に読み聞かせの楽しさを味わう子どもの姿が増えた。 ・れんらくちょう、クラスだよりの有効な活用につながる工夫が必要である。	・日々の子どもの学びや、友だち同士の育ち合いがわかりやすいクラスだよりに、れんらくちょうでの連携を行う。	・絵本の読み聞かせは親子共に大切な活動である。今後も継続してほしい。 ・子どもの育ちや保育の内容がより伝わりやすいクラスだよりを期待する。
	開かれ信頼される学校園	・園外へ積極的に園情報を発信する。 ・地域の幼稚園として、いろいろな地域の方とのかわりを深める。	・地域とかかわる機会に子どもの様子を積極的に伝える。 ・地域に発信する為、園外に掲示板の設置をすすめる。 ・HPの更新をすすめる。	・いろいろな機会に情報発信できたか。 ・掲示板などを設置し、情報を発信できたか。 ・月2回以上更新する。	B	・園外の方とかかわる機会が増え、幼稚園での教育や子どもの育ちへの関心も高まった。 ・掲示板を設置することができなかった為、子どもの様子を定期的に門に掲示した。 ・月2回は更新するように努めた。	・引き続き、いろいろな機会に発信の工夫をしていく。	・掲示板の代わりに掲示していた正門の写真には、教育内容や子どもの様子がわかりやすく書かれてあり良かった。園外に向けて発信することを今後も続けて欲しい。 ・小学校中学校との連携、大きな地域の公園を通しての地域の交わりは、園児が地域に守られて成長することへとつながっている。
学校関係者評価総括		<p>・公立幼稚園ならではの、保護者との密な連携、地域との交流は、地域に生きる子ども(園児)としての安心感と自覚をもたらし、成長へつながっている。</p> <p>・きめ細やかなクラス経営や、特別支援教育の推進は、子どもの健やかな成長はもちろん、保護者にとっても大きな心の支えとなっているのではないかと感じる。</p>						
次年度に向けた重点的な改善点		<p>・新たに視点とした身体を動かす心地よさを味わう保育について、次年度さらに継続して研究を進め、子ども一人一人の心身共に健やかな成長に努める。</p> <p>・小学校、中学校、未就園児など地域と共に育ち合う教育内容の工夫に取り組む。</p>						